

3: 椿オイル *Camellia Oil*

BMD3960~4063



かつて、ロンドン・サヴィルロウの仕立て屋達に愛された、
52 番双糸が蘇ります。

HISTRICAL BACKGROUND 歴史背景

20 世紀の初頭から、この 2/52 番手 (= 52 番双糸) の糸は高級梳毛糸の代名詞とされ、背広の語源にもなったとされる、イギリス ロンドンの仕立て屋が軒を連ねる通り、「サヴィル・ロウ / SAVILE ROW」で、高級注文服に用いられていた服地の中でも、手裁断のしやすさと安定した品質、顧客の体格にジャストフィットさせるアイロンワークにもっとも適した素材として定着しました。

近年、イタリア素材の台頭により 軽量で薄い素材が世界的な流行になりましたが、ロンドンのサヴィル・ロウの仕立て屋たちは、その素材感を“薄すぎる”として手放しでは受け入れること無く、ひたすら自らのテーラーリングの技術を存分に発揮できる、この 2/52 番手の素材を 20 世紀終盤にさしかかる頃まで、メインに使用する服地の一つとして重宝し、活用し続けたのです。



ESSENCE OF SAVILE ROW サヴィルロウのエッセンス

現代では太番手とも言えるこの 2/52 番手を復刻した、この品質には、妥協を許さないミュキの哲学が盛り込まれています。

1: 太番手ながらも原料の良さにはこだわります。

使用する原毛は、17.5 ミクロンの極細のウールを採用。スーパー120's 相当のこの原毛は均一で、きめ細かい服地の表面を生み出すのです。

2: 洋服の体への“沿い” 流麗な“服地の落ち”。

紡績時に、通常の撚り工程よりも回転数をアップさせていますので、仕立て上がった服の体へのフィット性や、服地そのものの流麗なドレープ性が実現しました。
絶妙な風合いを実現したミュキの「セミ強撚」。

3: デザインテイストはエッセンス オブ サヴィル・ロウ。

デザインの基礎となるものは、やはり伝統的英国テイスト。

特ににいしえのサヴィル・ロウの仕立て屋が好んで使用した色柄を意識してデザインしました。スーツの本質とも言える、英国のエッセンスをぎゅっと抽出したようなコレクションです。
その上品さ、仕立て上がった時の柄の“映え”までも十二分に表現しました。



CAMELLIA OIL TREATMENT 椿オイル加工

椿オイルによる「洗い」は、滑らかな手触りを生み出します。

古来より、皮膚や毛髪に対する保湿剤として使用されてきた椿油(=椿オイル)をこの品質の洗いの工程で投入しています。椿オイルに含まれる「オレイン酸」は、服地に潤いを与え、上品な艶と柔らかで滑らか、しっとりとした風合いを実現します。



※文中の写真は全てイメージです。ロゴマークデザインは変更/中止することがございます。



御幸毛織株式会社

〒452-8570 名古屋市西区市場木町390番地
<http://www.miyukikeori.co.jp>